

## 名誉教授増田四郎著作目録抄

(191) 名誉教授増田四郎著作目録抄

昭和七年(一九三二年)  
富山壳業史研究(卒業論文)

昭和十年(一九三五年)  
独逸ハンザ都市リュールベックの成立について

『東京商科大学研究年報 経済学研究』4 十一月

昭和十一年(一九三六年)  
遠藤正男著『商業資本発達史論』(書評)

『一橋新聞』七月十三日

昭和十二年(一九三七年)

川上多助著『日本歴史概説』(書評) 『一橋新聞』四月二十六日  
中世北欧商業の展開(一、二・完)

『社会経済史学』第七卷第六号、第七号、九月、十月  
「札差事略」のこと 『一橋新聞』十月二十五日

昭和十三年(一九三八年)

ケチケ、エーベルト共著『東独逸植民史』(書評)

『一橋論叢』第一卷第二号 二月

ハンザ同盟の成立 『一橋論叢』第一卷第五号 五月

大塚久雄著『株式会社発生史論』(書評)

『一橋論叢』第二卷第二号 八月

宮本又次著『株仲間の研究』(書評)

『一橋論叢』第二卷第四号 十月

都市経済を繞る最近史学界の動向

『一橋論叢』第二卷第六号 十二月

独逸皇帝政策文献抄(特殊文献目録)

『一橋論叢』第二卷第六号 十二月

昭和十四年(一九三九年)

中世都市経済機構に関する新文献(特殊文献目録)

『一橋論叢』第三卷第二号 二月

独逸都市法形成の社会史的基礎

『東京商科大学研究年報 法学研究』4 二月

吹田順助著『近代独逸思潮史』(書評)

『一橋論叢』第三卷第五号 五月  
 中世東独逸植民運動の政治的性格

『一橋論叢』第四卷第三号 九月  
 朝鮮史蹟巡り  
 『一橋新聞』九月十日

『一橋新聞』九月二十五日  
 古ゲルマン文化連続性の問題

『社会経済史学』第九卷第七号 十月  
 小林太市郎著『支那思想とフランス』(書評)

『一橋論叢』第四卷第四号 十月  
 『一橋新聞』十一月二十五日  
 学界展望 経済史

『社会経済史学』第九卷第九号 十二月  
 鶴見左吉雄著『日本貿易史綱』(書評)

昭和十五年(一九四〇年)

エリッヒ・カイザー著『独逸人口史』(書評)

『一橋論叢』第五卷第二号 二月  
 フランク王国の商業交易  
 『一橋論叢』第五卷第五号 五月

野村兼太郎著『一般経済史概論』(書評) 『三田新聞』六月十日  
 上田貞次郎博士を憶ふ(金子鷹之助氏と共同執筆)

『社会経済史学』第十卷第五号 八月  
 ドーブシュ教授の生誕七十年記念

『一橋論叢』第六卷第四号 十月  
 マキアヴェルリ『ローマ史論』の邦訳(書評)

『一橋新聞』十月十日

『一橋新聞』十月二十五日  
 独逸史学界近況

昭和十六年(一九四一年)

中世都市 『社会経済史学』第十卷第十一・十二号 三月  
 後に社会経済史学会編『社会経済史学の発達』

岩波書店 昭和十九年五月  
 企業家的精神 『一橋新聞』五月二十五日

欧羅巴政治の理念と現実 『一橋専門部時報』七月一日  
 中世諸民族文学への関心 『一橋新聞予科版』七月十日

ゲルマン都市の先駆的諸形態 『一橋論叢』第八卷第二号 八月  
 カール・ヴェーラー『ゲルマン的団体性』(書評)

『一橋論叢』第八卷第三号 九月  
 ルヨ・ブレンターノ『近世資本主義の起源』(書評)

『一橋新聞』十一月十日  
 『一橋論叢』第五卷第二号 二月

昭和十七年(一九四二年)

『一橋新聞』一月一日  
 学界展望 歴史学  
 独逸皇帝政策論争の一展開 『一橋論叢』第九卷第三号 三月

商人ギルドと都市領主 『社会経済史学』第十一卷第十一・十二号 三月  
 オストロゴルスキー『ビザンツ史の諸期』(書評)

『社会経済史学』第十二卷第五号 八月

昭和十八年（一九四三年）

- 独逸中世史の研究 日本評論社 十月二十日  
歴史的國家の本質——二十世紀史学の根本問題——  
『一橋新聞』一月一日  
ホルガー・アルプマン著『瑞典とカロリンガー王国』（書評）  
『一橋論叢』第十二卷第五号 十一月  
中世に於ける独逸民族の東方発展  
『日独文化』第四卷第二・三合併号 十二月

昭和十九年（一九四四年）

- 九世紀に於けるフランク商業  
『社会経済史学』第十三卷第十一・十二号 三月  
都市及びギルド 『世界史講座』第七卷 弘文堂 十一月

昭和二十一年（一九四六年）

- ドーブシュの史観と「発展」の問題 『歴史評論』創刊号 十月  
歐羅巴世界成立史観の諸類型  
『思想問題研究』第一卷第五号 十月

昭和二十二年（一九四七年）

- 移動期東ゴート族の王権伸長——国家起源論の一端として——  
『一橋論叢』第十七卷第一・二号 二月  
古ゲルマン民族の国家形態 『歴史学研究』第一二七号 五月

昭和二十三年（一九四八年）

- 文化の没落と再興 『新星』第一卷第五号 一月  
西欧市民社会の成立 上、下 『読書新聞』五月十二日、十九日  
転換期の歴史把握のために 『季刊理論』第三・四号 五月  
封建制起源論の構造 『一橋新聞』七月十五日  
松田智雄著『近代の史的構造論』（書評）  
『読書新聞』七月二十一日  
古ゲルマン民族の経済生活——タキトゥス『ゲルマニア』に  
よる——

小野武夫博士還暦記念論文集『西洋農業経済史研究』

日本評論社 九月

鈴木成高著『封建社会の研究』（書評）

- 『社会経済史学』第十五卷第一号 十月  
中世経済史家としてのマックス・ウェーバー——都市研究を中  
心に—— 『社会科学研究』1 鎌倉文庫 十二月  
ゴート戦役とイタリア経済社会の変質  
『一橋論叢』第二十卷第五・六号 十二月

昭和二十四年（一九四九年）

- ヨーロッパ社会の誕生 啓示社 一月十日  
西欧市民意識の形成 春秋社 五月十五日  
ゲルマン部族国家の性格——東ゴート族のイタリア支配につ  
いて—— 『共同研究 古代国家』啓示社 二月  
市民意識の問題 『教育と社会』第四卷第五号 五月

西洋中世経済史(文献解説)、ドイツ近世経済史(文献解説)

一橋新聞部編『経済学研究の栞 西洋経済史篇』

春秋社 十二月

昭和二十五年(一九五〇年)

西洋経済史

新紀元社 七月五日

西洋中世世界の成立

岩波書店 九月二十五日

世界史的考察の課題

『歴史評論』復刊第一号 一月

村川堅太郎著『西洋史提要』(書評)

『読書新聞』一月十八日

高村象平著『一般経済史(古代中世篇)』(書評)

『社会経済史学』第十六卷第一号 四月

封建国家への一視角——堀米氏の論稿に寄せて——

『社会構成史体系月報』第六・七号 五月

堀米庸三著『中世国家の構造』(書評)

『一橋論叢』第二十三卷第六号 六月

アルフォンス・ドーブシユ

『社会経済史学』第十六卷第二号 六月

鈴木圭介著『アメリカ経済史研究序説』(書評)

『経済研究』第一卷第三号 七月

ギールケとメンガー『一橋大学経済学講座月報』第二号 七月

中世的国家形態の変遷 『一橋論叢』第二十四卷第三号 九月

笠信太郎著『もの見方について』(書評)

『一橋新聞』十月一日

杉村先生を憶う 杉村敦子編『杉村広蔵博士を憶う』十一月

中世ドイツ国家の性格

杉村記念会編杉村博士記念論文集『経済哲学の諸問題』

新紀元社 十二月

昭和二十六年(一九五一年)

ゲルマン民族の国家と経済

勁草書房 五月一日

独逸中世史の研究 簡約版

勁草書房 十月十日

農奴解放 『社会科学講座』第四卷 弘文堂 一月

中世初期ザックセンの等族制について

『史学雑誌』第六十編第一号 一月

身分と階級

『九州大学新聞』一月二十日

石母田正氏の論文「封建国家に関する理論的諸問題」を読み

『歴史学研究』月報』二月号

高橋幸八郎著『市民革命の構造』(書評)

『一橋新聞』二月二十日

『世界歴史事典』平凡社 四月より刊行開始され、カール大帝、

カロリング朝、キウイタス、宮宰、サン・ガレン修道院、サ

ン・ジェルマン修道院、史学史——西洋(中世)、都市同盟、

都市法、ピレンヌ、フランク王国、フルダ修道院、マイツェ

ン、マウラー、リユーベック、ロムルス・アウグストゥルス、

その他の項目を寄稿。

近代市民社会成立の基礎

『季刊理論』第十六号 五月

ジョゼフ・カルメット著川俣晃自訳『ジャンヌ・ダルク』(書評)

『読売新聞』六月十一日朝刊

(195) 名譽教授増田四郎著作目録抄

- ギルド、中世商業、中世都市、ハンザ同盟  
大阪市大経済研究所編『経済学小辞典』岩波書店 六月  
封建制の崩壊をめぐる理論と史実 『思想』第三二五号 七月  
ドイツ中世都市の起源について  
『一橋論叢』第二十六卷第五号 十一月  
十二世紀フランドル地方の経済変革  
『社会経済史学』第十七卷第五号 十一月
- 昭和二十七年(一九五二年)  
歴史学 新紀元社 三月十五日  
都市——その根柢にあるもの—— 如水書房 十二月二十日  
現代歴史学の課題 (1)、(2)、(3)  
『一橋新聞』一月三十日、二月十日、二月二十五日  
都市自治の二つの問題点『都市問題』第四十三卷第二号 四月  
Two Types of Medieval Cities in Western Europe.  
*The Annals of the Hiotsukashi Academy, Vol. II, No. 2,*  
April.  
戦後シムンヘンを中心とする歴史家の活動  
『社会経済史学』第十八卷第一号 四月  
山中謙二著『西洋中世史』(書評) *Books, No. 25.* 五月  
豊田武著『日本の封建都市』(書評) 『図書』七月号  
イタリア中世都市の起源について  
『一橋論叢』第二十八卷第四号 十月  
古代より中世への転換の問題『経済研究』第三卷第四号 十月
- 古代末期のガリア社会 『西洋史学』第十五号 十月  
羽原又吉著『日本漁業経済史』上巻(書評)  
『一橋新聞』十月三十日  
ゲルマン民族移動史研究の新動向  
『国学院政経論叢』第一卷第二号 十一月
- 昭和二十八年(一九五三年)  
現代歴史学の新動向(編著) 如水書房 八月三十日  
矢口孝次郎著『資本主義成立期の研究』(書評)  
『一橋新聞』一月二十日  
戦後におけるドイツ中世史学界の動向  
『歴史学研究』第一六二号 三月  
林健太郎著『史学概論』 『読書新聞』七月六日  
ドイツ経済史についての二つの近著  
『経済学新大系月報』IX 八月  
宮下孝吉著『ヨーロッパにおける都市の成立』(書評)  
『読書新聞』八月十七日  
現代歴史学の課題  
『現代歴史学の新動向』 八月  
ドイツ国家の成立をめぐる諸問題  
『現代歴史学の新動向』 八月  
宮下孝吉著『ヨーロッパにおける都市の成立』(書評)  
『社会経済史学』第十九卷第二・三号 十月  
アンリ・ピレンヌの業績について  
『一橋論叢』第三十卷第五号 十一月

騎兵制と封建制起源の問題

『社会経済史学』第十九卷第四・五号 十二月

昭和二十九年(一九五四年)

中世都市の成立について 『市政』第三卷第四号 四月

民科歴史部会著『世界歴史講座』(書評)

『読書新聞』 四月五日

今井登志喜監修『世界歴史事典』(書評)

『東京新聞』五月二十八日

欧米史学界の近況——偉大な歴史家達への追憶——

『一橋論叢』第三十二卷第二号 八月

カロリング王朝期フランク王国の経済環境

『一橋論叢』第三十二卷第四号 十月

M・ドップ著『資本主義発展の研究』(書評)

『一橋新聞』十一月十日

中世村落研究の問題点

『国学院政経論叢』第三卷第三号 十二月

昭和三十年(一九五五年)

歴史学入門

河出書房 二月二十五日

西洋経済史 上巻(宮下孝吉、高村象平氏と共著)

有斐閣 五月三十日

西洋経済史概論

春秋社 十二月二十五日

青木英夫・飯塚信雄著『西洋服装文化史』(書評)

『図書新聞』二月二十六日

西ヨーロッパ古代末期・中世前期経済史の研究状況

『社会経済史学』第二十卷第四・五・六号 三月

『世界大百科事典』平凡社 三月より刊行開始され、ヴェネツ

ィア、ギーゼブレヒト、宮宰、都市(歴史)、都市貴族、都

市同盟、ハンザ同盟、フンデルトシャフト、マウラー、三浦

新七、民族大移動、リュベック、その他の項目を寄稿。

ドイツ歴史学界の再出発『一橋論叢』第三十三卷第五号 五月

『経済学教科書』第一分冊の第一号、即ち歴史に関する部分に

ついでのご感想 『経済研究』第六卷第三号 七月

ドイツ中世史研究における都市と農村

『一橋大学創立八十周年記念論集』上巻 勁草書房 九月

歴史学(一橋学問の伝統と反省)

『一橋論叢』第三十四卷第四号 十月

歴史学について 『社会科学を学ぶ者へ』 同文館 十月

文化史としての社会経済史——『西洋経済史概論』ができる

まで—— 『現代経済学全集月報』3 十二月

封建制、身分 『経済学大辞典』Ⅲ 東洋経済新報社 十二月

昭和三十一年(一九五六年)

アンリ・ピレンヌ著 中世ヨーロッパ社会経済史(小松芳喬、

高橋幸八郎、高村象平、松田智雄、五島茂氏と共訳)

一条書店 五月十五日

体系経済学小辞典(高橋泰蔵氏と共編)

東洋經濟新報社 九月二十一日  
ピレンヌ著大塚久雄・中木康夫訳『資本主義発達の諸段階』  
(書評) 『図書新聞』一月十四日  
資本主義以前の生産方法

社会思想研究会編『「経済学教科書」の問題点』上  
中央公論社 三月

ドイツ国家成立期における種族と王権

野村兼太郎博士選歴記念論文集『封建制と資本制』

有斐閣 三月

歴史学

『社会科学入門』 みすず書房 六月

各国社会経済形態のうち西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、アメリカ、並びにその他。革命および社会運動のうち革命

『体系経済学小辞典』 九月

ミュンヘン便り——ミュンヘン大学の現状——

『一橋論叢』第三十六卷第三号 九月

西独史学界の一動向——バイエルンを中心に——

『経済研究』第七卷第四号 十月

昭和三十三年(一九五七年)

都市

弘文堂 十月三十日

ヨーロッパの横顔

平凡社 十月三十日

ヨーロッパ都市の伝統

『歴史教育』七月号

中世初期における西南ドイツの村落形態

『一橋論叢』第三十八卷第四号 十月

宇尾野久著『ヨーロッパ中世社会経済史論攷』(書評)

『図書新聞』十一月二十三日

昭和三十三年(一九五八年)

増訂版 西欧市民意識の形成 春秋社 十二月二十五日

中世初期シュワーベンの貴族支配——村落団体と貴族支配についての一考察——

『一橋大学研究年報 経済学研究』2 三月

ドイツの歴史、その他『世界文化地理大系』17 平凡社 四月

ウィレー著深瀬基寛訳『十七世紀の思想的風土』(書評)

『出版ニュース』六月中旬号

堀米庸三著『西洋中世世界の崩壊』(書評)

『図書』七月号

堀米庸三著『西洋中世世界の崩壊』(書評)

『読書新聞』七月二十八日

中世初期村落史研究の問題点——ドイツ史学界を中心に——

『一橋論叢』第四十卷第四号 十月

コスミンスキー著『世界中世史研究』第一卷(書評)

『読書新聞』十月二十七日

昭和三十四年(一九五九年)

ウェーバー著渡辺金一・弓削達訳 古代社会経済史(上原専祿氏と共同監修)

東洋經濟新報社 一月二十日

歴史学入門

河出書房新社 三月二十五日

西洋封建社会成立期の研究

岩波書店 五月二十八日

図説世界文化史大系 第七卷 (柳宗玄氏と共編)

角川書店 七月三十日

アノルド・J・トインビー著長谷川松治訳『統歴史の研究』

(書評) 『週刊読書人』一月十二日

南欧雑感 『一橋カトリック研究』三月二十日

史学の成立 『一橋カトリック研究』三月二十日

金子武蔵・大塚久雄共編『講座近代思想史』第IV巻

日本文化の世界史的位置づけ 弘文堂 三月

マックス・ウェーバー 『一橋論叢』第四十一巻第四号 四月

ヨーロッパにおける中世都市研究の動向

『理想』四月号

『一橋論叢』第四十二巻第六号 十二月

共編) 弘文堂 一月より刊行始まる。

改訂版 都市 弘文堂 五月十五日

ビレンヌ著中村宏・佐々木克巳訳『ヨーロッパ世界の誕生(監修

及び監修者序文) 創文社 八月三十一日

中世前期の概説 『社会経済史大系』II 一月

『世界名著大辞典』平凡社 二月より刊行開始され、カロリン

グ朝時代の経済発展、近代経済史、経済史の諸問題、経済社

会史、ゲルマン古代学事典、国民経済の成立、世界史におけ

る自然経済と貨幣経済、中世一般経済史、中世および近世一

般経済史、中世社会経済史、中世初期の農業制度、中世世界

の基礎、中世ドイツ経済史、中世ドイツの経済生活、中世都

市、中世末期における農村、中世ヨーロッパ社会経済史、ド

イツ皇帝時代における支配と農民、独逸中世史研究、独逸中

世の社会と経済、封建社会、マホメットとシャルルマーニュ、

ヨーロッパの経済的發展、ヨーロッパ文化發展の経済的・社

会的基礎の諸項目を寄稿。

古典古代の概説 『社会経済史大系』I 五月

ヨーロッパ初期中世における土地支配と農民

『歴史学研究』第二四二号 六月

大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編『西洋経済史講座』I (書

評) 『読書新聞』六月十三日

大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編『西洋経済史講座』I、II、

III、IV (書評)

『一橋新聞』六月二十日、九月十日、十月十日、十一月三十日

昭和三十五年(一九六〇年)  
社会経済史大系全十卷(高村象平、小松芳喬、矢口孝次郎氏と

- マックス・ウェーバー、ドブシユ、ピレンヌ  
『社会経済史大系』IX 八月  
中木康夫著『ロスチャイルド家』山上正太郎著『ウイinst  
ン・チャーチル』(書評) 『図書新聞』八月二十日  
初期中世の村落秩序とその変貌——特にシュワーベンの事例を  
中心に—— 『一橋論叢』第四十四卷第六号 十二月  
大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編『西洋経済史講座』(書評)  
『朝日ジャーナル』十二月十一日
- 昭和三十六年(一九六一年)  
ゲルマン民族の社会と経済、民族大移動と部族国家、フランク  
王国の成立と発展 『世界の歴史』5 筑摩書房 二月  
フランク王国のシュワーベン統治について  
『社会経済史学』第二十六卷第四・五号 三月  
宇尾野久著『西洋中世初期社会経済史研究』(書評)  
『図書新聞』四月十五日  
下村寅太郎著『ヨーロッパ遍歴』(書評)  
『週刊読書人』八月二十六日
- 昭和三十七年(一九六二年)  
地域史研究の効用と限界『一橋論叢』第四十七卷第三号 三月  
フランク時代における都市および農村の変容  
『一橋大学研究年報 経済学研究』6 三月  
大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編著『西洋経済史講座』I—
- V (書評)  
『経済研究』第十三卷第三号 七月  
鮎田豊之著『封建支配の成立と村落共同体』(書評)  
『一橋論叢』第四十八卷第三号 九月  
古ゲルマンの集落形態 『古代史講座』6 学生社 十二月
- 昭和三十八年(一九六三年)  
カール大王のザクセン戦役について  
『一橋論叢』第四十九卷第三号 三月  
いわゆる原初村落の集村化について  
久保正幡編『中世の自由と国家』上巻 創文社 三月  
歴史と現実——日本における西洋史研究の問題状況——  
『思想』第四六八号 六月  
水田洋著『霧の国 太陽の国』(書評) 『一橋新聞』六月十五日  
テオドル・マイヤー著『中世史研究論集』(書評)  
『一橋論叢』第五十卷第二号 八月  
クルト・ポエーナー著『トリアー地方におけるフランク時代の  
遺跡・遺物』(書評)  
『社会経済史学』第二十八卷第六号 八月  
千種義人著『欧米の都市と大学』同『ヨーロッパ見物』(書評)  
『週刊読書人』九月九日  
土方定一著『ブリュージュ』(書評)  
『朝日ジャーナル』九月九日号
- 昭和三十九年(一九六四年)

東と西

春秋社 十月三十一日

土方定一著『画家と画商と蒐集家』(書評)

『東京新聞』一月二十九日夕刊

Some Problems in the Study of Occidental History in

Japan.

*Hito-subashi Journal of Arts and Sciences*, Vol. 4, No. 1,

March.

ハインリッヒ・マンネンバウアー

『一橋論叢』第五十一卷第四号 四月

弓削達著『ローマ帝国の国家と社会』(書評)

『図書』八月号

ヨーロッパ中世社会の発展様相

『国民経済雑誌』第一一〇卷第三号 九月

平沼先生の印象 『平沼淑郎博士生誕百年記念誌』十一月

昭和四十年(一九六五年)

体系経済学辞典(高橋泰蔵氏と共編)

東洋経済新報社 二月十日

飯塚浩二著『東洋への視角と西洋への視角』(書評)

『週刊読書人』一月一日

経済発展段階説、古ゲルマンの社会と経済、中世の農業と農村

社会、中世の商工業と都市、絶対主義、重商主義

『体系経済学辞典』二月

ヨーロッパにおける歴史研究の課題と方法

『思想』第四八九号 三月

社会経済史研究の新動向

*Die Akademie* 第十号 三月

M・ウェーバー著世良晃志郎訳『都市の類型学』(書評)

『週刊読書人』三月二十二日

ヨーロッパ封建社会の諸問題

『社会経済史学』第三十卷第三・四号 三月

堀米庸三編『現代歴史学入門』(書評)

『週刊読書人』五月三十一日

吹田先生を偲ぶ

『回想の吹田順助先生』 同学社 七月

創立九十周年記念号に寄せて

『一橋論叢』第五十四卷第三号 九月

ギルド、中世商業、ドーブシュ、ランプレヒト

大阪市大経済研究所編『経済学辞典』岩波書店 九月

リニューベックを想う

『国民百科』十二月号

昭和四十一年(一九六六年)

増補 西洋経済史概論

春秋社 三月十日

歴史学概論

廣文社 四月十日

大学でいかに学ぶか

講談社 五月十六日

ヨーロッパ中世の経済

『学燈』一月号—十月号

私の研究のねらい

『神戸新聞』二月二十八日

雑学多読のすすめ

『朝日新聞』三月二十四日夕刊

日本の町とヨーロッパの町

『都政』六号

昭和四十二年(一九六七年)

- ヨーロッパとは何か  
歴史する心  
三浦新七と『東西文明史論考』  
昭和四十三年（一九六八年）  
岩波書店 七月二十日  
創文社 十月十五日  
『中央公論』十月号  
『中央公論』十月号
- と共著）  
明治百年の反省  
ヨーロッパ史における十二世紀  
『一橋論叢』第五十九卷第三号 三月  
講談社 十月十六日  
『黎明叢書』第三十一号 一月
- 笠さんを憶う  
江幡清編『回想笠信太郎』 笠信太郎追悼集刊行会 十一月  
（略年譜・著作目録抄——佐々木克巳）
- 都市  
経済学へのすすめ（荒憲治郎、山田勇、都留重人、宮沢健一氏  
筑摩書房 四月三十日